

公認会計士・監査審査

会は14日、2014年の公認会計士試験の結果を発表した。受験者は1万870人と前年から18%減った。06年の新試験制度に移行後、最も少ない。制度改革で大量の合格者を出して就職できない「会計士浪人」を生み、その後合格者を絞った影響から抜け出せていない。

公認会計士 受験者最低に

新制度移行後

「会計士を将来の選択肢に入れる学生が減った」。公認会計士・監査審査会幹部は嘆く。ピーク時に2万5000人を超えた受験者は半分以下にまで落ち込んだ。14年の合格者も1102人と新制度移行後、最も少ない。合格率は10・1%と3年連続で上昇している

合格者、7年連続減

ものの、学生の人気はいまひとつだ。背景には過去の就職難がある。「会計士5万人構想」を掲げた金融庁は、新試験移行後の3年間、毎年3000人を超す合格者を出した。ところが就職できない合格者が「半分近くになった」（審査会）。金融庁は一転合格者を大幅に絞り、7年連続の減少となった。